



自治医科大学 脳血管内治療部（脳神経外科） 檜垣鮎帆

### 私のキャリアパス

2008年に島根大学医学部卒業後、自治医科大学附属病院に初期研修医として入職しました。学生時代の臨床実習で、髄膜腫の長時間手術でも全く睡魔が襲うことがなくワクワクし、クリッピング術では心がざわつくほどこの手術をしたいと思ったことがきっかけで、脳神経外科の入局先として考えていた自治医大で初期研修をしました。入職当時、非常にアットホームな医局で専門医前の素晴らしい女性脳外科医の方々が生き生きと働いておられたので、この医局ならばやっていかれるかも！と思い入職を決心したことを覚えています。

2006-7年に自治医科大学の学生見学で、脳血管内治療部の根本繁教授にお会いした際に、自分はコイリングには興味がなくクリッピングがしたいと言い放ち、周囲がざわついた記憶があります。脳血管内治療医を目指そうとはこれっぽっちも考えていなかった自分ですが、2015年にJSNET 専門医を取得しすでに9年が経とうとしており、今では脳血管内手術しかしていないことが自分でも不思議で、縁やたまたまの巡りあわせで脳血管内治療医への方向性が定まっていきました。医師になる！脳神経外科医になる！ということは、明確な自分の意思決定が働きましたが、脳血管内治療医になる！に関しては、脳外科専門医前の自分に、そんなことをすら考える余裕は無かったです。

自治医科大学では脳血管内治療部は脳神経外科とは独立した部門で、脳血管内治療に専念できる環境にあります。難波克成教授のもとで、多くの脳血管造影や脳血管内手術を経験させていただいていますが、小所帯のため入院のセットアップや術後管理などの病棟業務も同時に次から次へと押し寄せてきます。他のことに目を向ける余裕もなく、日々目の前にある仕事を一つ一つ進めていたら今につながった、という状況です。そして後悔はないです。

最初は緊張していた脳血管造影や、自分には到底できないと思っていた脳血管内手術が、気がつくと自分の手中に入ってきていて、まだまだ未熟な部分はあるものの、放射線技師や看護師さんのサポートも受けながら、脳血管内治療医として誇りをもって仕事ができるようになってきていると感じています。

### 今後の抱負、会員へのメッセージなど

歴史を作ってこられた脳血管内治療医の諸先輩方の経験と知識は我々の財産であり、少しでも良い形で受け継げるように、これからも精進してまいります。

脳血管内治療医を目指す背景や本気度は人それぞれだと思います。良い事ばかりあるわけではないですが、目指すのであれば、真剣に誠実に誇りをもって脳血管内治療に携わってもらいたいと心から思っています。